

# 第33回日本ナイル・エチオピア学会学術大会第2次サーキュラー

2024年2月

第33回日本ナイル・エチオピア学会学術大会を下記の要領で開催いたします。東洋大学白山キャンパス（東京都文京区）にて対面で開催予定です。

## 1. 大会概要

【会期】2024年4月20日（土）～21日（日）

【会場】東洋大学白山キャンパス 〒112-0001 東京都文京区白山5丁目28-20

アクセスマップ：<https://www.toyo.ac.jp/nyushi/about/campus/hakusan/access.html>

【スケジュール】

2024年4月20日（土）評議員会、公開シンポジウム

2024年4月21日（日）研究発表、総会

※公開シンポジウムの詳細につきましては、末尾の案内をご覧ください。

## 2. 運営幹事会・評議員会・総会スケジュール

【運営幹事会】2024年4月19日（金）16時30分～18時30分

【評議員会】2024年4月20日（土）11時30分～12時30分

【総会】2024年4月21日（日）午後

## 3. 参加申し込み

（1）参加をご希望の方は、**2024年3月31日（日）までに<参加フォーム>**

<https://forms.gle/8GwF7TvCsaLmt3PM6> からお申し込みください。

\*この申し込みによって得た個人情報は、当学術大会の事務に関してのみ使用し、慎重に取り扱います。

（2）参加費

3月31日までに納入いただく場合 大会参加費3,000円（学生2,000円）

4月1日以降に納入いただく場合 大会参加費4,000円（学生3,000円）

大会参加費は、下記の口座に振り込んでください（当日受付での支払いも可能です）。

ソニー銀行 本店営業部 普通 2804104 ハザマイツヒロ

#### 4. 発表申し込み

(1) 研究発表は4月21日(日)に行われます。最大で12の発表が可能です。ただし、希望者多数の場合はポスター発表に変更していただく可能性があります。

(2) 発表形式：口頭発表(25分〈発表20分、質疑応答5分〉)です。

(3) 発表申し込み：発表をご希望の方は、まず、**2024年3月15日(金)**までに上記の<参加フォーム>経由で発表希望についてお知らせください。発表をご希望の方は、締め切り厳守でご連絡をお願いいたします。

(4) 発表要旨提出：発表をご希望の方は、参加申し込みをしていただいたうえで、**2024年3月31日(日)**までに、発表要旨を<発表要旨フォーム> (<https://forms.gle/WJ5SMiTcTQddRiMM7>) 経由でご提出ください。

\* フォームに入るためにはGoogleアカウントが必要です。Googleアカウントをお持ちでない方は、アカウント(無料)を作成のうえフォームにお入りください。

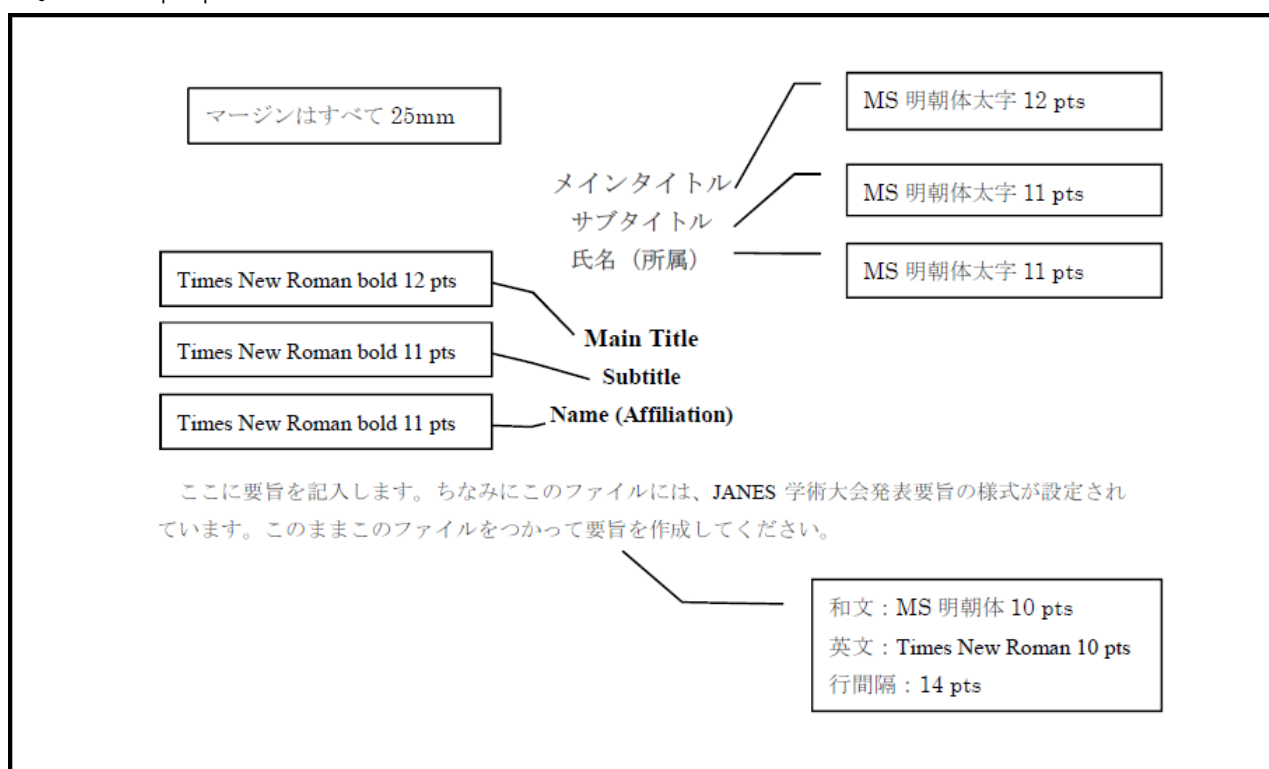
## 5. 発表要旨作成要領

主な仕様は下記の通りです。テンプレートを別途添付いたしますので作成にご利用ください。

- 原稿サイズと上限枚数：A4、2ページ以内
- マージン：上下左右25mm
- 和文フォント：MS明朝体
- 英文フォント：Times New Roman
- タイトル・フォントサイズ：12ポイント
- サブタイトルおよび発表者の氏名・所属・フォントサイズ：11ポイント
- フォントサイズ（本文）：10ポイント
- 本文行間隔：14ポイント
- タイトル、サブタイトルおよび発表者の氏名・所属：中央揃え、太字
- 日本語による発表：英文のタイトル、サブタイトル、氏名・所属を記載してください
- 英語による発表：英語のみ

★A4用紙縦一枚に収まるようにしてください。The abstract should be within one page.

★原則として、WORD文書とPDFに変換したファイルの2点を発表要旨フォームから送付してください。Please prepare 2 files for an abstract in WORD format and PDF format.



## 6. 託児所

託児所を開設する予定です。希望者は3月20日（水）までに〈参加フォーム〉にその旨ご記入のうえお知らせください。

## 7. 宿泊施設等のご案内

大会事務局では宿泊の紹介は行っていません。必要に応じて早めに各自で宿泊施設への予約を行ってください。

## 8. 問い合わせ等

2024年度の学術大会に関する情報は、逐次、以下の日本ナイル・エチオピア学会ホームページからご覧いただけるようにいたします。 (<http://www.janestudies.org/>)

また、学術大会に関する問い合わせ先は下記のとおりです。

第33回日本ナイル・エチオピア学会学術大会事務局：中村香子（委員長）

大会事務局連絡先：〒112-0001 東京都文京区白山5丁目28-20

事務局専用メールアドレス：33rd.janes[at]gmail.com（送信の際は[at]を@に変換してください）。

## 第33回日本ナイル・エチオピア学会学術大会・シンポジウム

共催：東洋大学国際共生社会研究センター

### 月経をめぐる課題の諸相

#### —沈黙の殻をやぶり動き出した世界—

開催日：2024年4月20日（土）14:00～16:00

言語：日本語

場所：ハイブリッド（対面式・オンライン）

対面式会場：東洋大学白山キャンパス8号館7階 125ホール

オンライン：Zoom 配信（URLは後日通知）

登壇者1) 杉田映理（大阪大学）：「月経の尊厳をめざして：アフリカ、欧米、アジアに広がるボトムアップの活動」

登壇者2) 山内太郎（北海道大学）：「サニテーションと月経—アジア、アフリカの事例から」（仮）

登壇者3) 千葉暁子・大門碧（ピースウインズ・ジャパン）：「ケニアにおける女性と少女の尊厳を守る月経衛生プロジェクト」（仮）（ケニアよりオンラインで発表）

登壇者4) 中村香子・Toyo-MeWプロジェクト学生メンバー（東洋大学）：「東洋大学における月経をとりまく環境の改善を目指す学生主体の取り組み」

アジア・アフリカなどの発展途上国において、月経対処は女子教育の阻害要因になっており、たとえばウガンダでは経血が衣服に沁みてしまうことへの心配や恥ずかしさが女子生徒の学校欠席の最大の理由になっている。こうした状況が解決すべき課題として注目を集めるようになり、2010年代にはMHM（Menstrual Hygiene Management）が開発用語として定着して、月経対処を焦点化した開発プロジェクトが増加した（杉田 2016, 2022）。MHM とは、（1）正確で時機を得た月経に関する知識、（2）安全で、手ごろな価格で、入手可能な生理用品、（3）（安全で衛生的でプライバシーが確保された）トイレと（手や身体を）洗うための設備、（4）生理用品の安全で衛生的な廃棄、（5）月経に関する知識をもち安心できる教員やヘルスワーカーなどの専門職、（6）保健サービスへの紹介とアクセス、（7）月経に関するポジティブな社会規範、（8）月経に関するアドボカシーと政策、と定義されている（UNESCO 2014）。

月経をめぐるムーブメントは欧米などでも同時に起きた。“period poverty”（生理の貧困）という

言葉は日本でもよく知られるようになってきたが、イギリスのマスコミが用いた言葉である。イギリスでは2020年、小学校～高校で生理用品が無償で提供されるようになり、同様の動きは日本の公的機関や教育施設にも急速な広がりを見せている。また“menstrual equity”（生理をめぐる公正）、“menstrual dignity”（月経の尊厳）といった言葉も広まりつつあり、オープンに話すことがタブーとされてきた月経に尊厳をもってむきあう権利が主張されるようになってきている。こうしたムーブメントは、#MeTooなどの第4波フェミニズムにも呼応した（杉田 2022）。

月経はいま、世界のあらゆる場所で、沈黙の殻をやぶり、議論されるべきイシューとして立ち現れている。月経をとりまく課題は多岐にわたる。たとえばSDGsに照らして考えれば、少なくとも次の8つと関連付けられる：Goal1 貧困をなくそう：「生理の貧困」の問題の解消、Goal3 すべての人に健康と福祉を：月経に関連する健康状況の改善、Goal4 質の高い教育をみんなに：月経で阻害される教育機会の改善、Goal5 ジェンダー平等を実現しよう：月経に関連する差別・男女格差の解消、Goal6 安全な水とトイレを世界中に：生理用品の設置等によるトイレ内環境の向上、Goal8 働きがいも経済成長も：月経のある人にとっても働きやすい環境の整備、Goal10 人や国の不平等をなくそう：「生理の貧困」の解消による不平等の是正、Goal12 つくる責任、つかう責任：生理用品の品質の保証とゴミ問題の諸相の解明。

本シンポジウムでは、この分野を牽引する研究者と開発実践の専門家が、貧困、教育、ジェンダー、サニテーションなどをキーワードとしたアフリカ、東南アジア、欧米、日本の事例を紹介しながら、月経をとりまく課題を総合的に議論する。